【短縮版】埼玉県における AI 活用の現状と将来展望

―県内産業の活用実態、企業ニーズ、共通課題及び地域全体の発展可能性に関する総合分析―

藤 崇一郎｜FANDDF 代表　資料基準日：2026 年 10 月 13 日

埼玉県の企業調査では、回答企業の 32.3%が生成 AI を活用しています。 しかし、業種によって使い道も課題も異なります。

① 業種ごとの現状と今後の可能性

業種	現在の活用事例	今後の方向性
製造業	AI による品質検査・寸法測定	誤判定を減らし、品質の安定化と作業の効率化へ
小売・物流業	受発注・在庫・配送業務のデジタル化（AI 以外も含む）	需要予測や配送計画など、現場に合った AI 活用へ
建設・不動産業	AI による施工計算、3D 技術による現場検査	現場条件や設計基準に合った効率化・品質管理へ
医療・福祉・士業	介護記録・勤務管理、AI を利用した業務アプリ開発	専門家の判断を残し、周辺業務の負担を軽減
農業・食品関連	AI による農産物選別、衛星データを使った生育分析	生産条件に合わせた品質管理・省力化へ

② 現場と経営層では、判断軸・評価軸が違う

現場で重要なのは「AI の答えを、その仕事に使ってよいか」。

判断軸は、正確性、専門的な基準、現場の条件との一致。評価軸は、作業品質、ミスの減少、手直しの少なさなどです。

経営層で重要なのは「どの仕事に AI を使い、組織としてどう管理するか」。

判断軸は、業務への適合性、利用範囲、責任分担、確認体制。評価軸は、業務全体の改善、品質の安定、継続性、再現性などです。

つまり、AI をうまく使うためには、何を基準に判断し、何をもって良い結果とするのかを明確にすることが重要です。

③ 結論 ― 埼玉県の AI 活用の将来性

埼玉県では AI の利用が広がり、実際の業務への導入事例も確認されています。

しかし、AI を導入しただけで成果が生まれるわけではありません。

今後の鍵となるのは、仕事に適した AI を選び、人間が判断・確認する基準を明確にし、その成果を評価できる仕組みを整えることです。

こうした取組が県内の多様な企業に広がれば、AI 活用のさらなる発展が期待できます。ただし、県全体への経済的な効果は、現時点では十分に測定されていません。

※業種別の現状は公開企業事例に基づき、今後の方向性は可能性を整理したものです。現場と経営層の比較は、意識調査の結果ではなく、論文で扱った業務上の判断・評価の観点を役割別に整理しています。

研究論文全文：『埼玉県における AI 活用の現状と将来展望』Ver.4.3（2026 年 10 月 13 日）

© 2026 藤 崇一郎（FANDDF）

本稿の独自の文章・分析・構成及び作成図表について、著作権法上認められた引用等を除き、無断での複製・転載・改変・再配布を禁じます。

引用の際は著者名・論文名・版を明示してください。参照資料に関する権利は各権利者に帰属します。